

## 8-4-18 道路専門委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 道路専門委員会の開催

委員会開催回数：9回（4月～1月）

#### (2) 対外活動

##### a) RCCM 登録更新教材の更新

「道路」及び「トンネル」について改訂作業を行った。両分野とも、法や基準の改訂に伴う修正、出典や演習問題の整理・調整を実施した。

##### b) 視察（支部との連携強化）

例年、道路交通技術に関する施設の現地での知見・知識取得や支部との交流を目的とした視察を実施しているが、今年度は、コロナ禍であることから視察は取りやめとした。支部との交流強化や知見・知識の修得は、委員会として必要かつ重要課題と認識しているため、次年度は、社会状況を踏まえた上で実施を検討したい。

##### c) WG 活動

当委員会では、以下の主な5つのWGの活動記録について記述する。

##### ① 設計システム WG

委員会社の若手技術者が集まり、「性能照査型道路計画・設計」に対して、これまでの研究を継続して活動を行った。昨年度に引き続き、「機能階層型道路ネットワークのためのガイドライン(案)」（交通工学研究会発刊）をブラッシュアップするため事例検討を継続した。

##### ② 品質向上 WG

過年度から継続し、設計ミス防止、品質向上を目指した「品質セミナー」の実施に向けてのエラーの事例集収集、作成及びセミナー講師として参画した。本年度はビデオ配信であったが、「道路・トンネル」部門は多数受講され、前年度より増して高評価であった。

##### ③ 勉強会 WG

令和3年1月26日、道路専門委員会講習会「道路インフラにおける最新計測技術とそのデータ活用」を開催した。

本年度は、緊急事態宣言中の開催となったことから、講習会は勉強会 WG メンバーのみ参加し、協会員へは後日（3月）、協会 HP からのアクセスによるビデオ配信とした。

・ 講師：クモノスコーポレーション（株）

代表取締役 中庭 和秀 様

・ 目的：最新の3次元計測技術を中心に道路インフラの基礎となるデータ取得の役割や今後の方向性について理解を深める。

・ 背景：近年、i-Construction が推進されている中、今後の道路インフラのあり方を考えるうえで、業務効率化や幅広い活用が見込める3次元計測データの特性と利活用の理解が重要となってきている。

・ 内容：BIM/CIM や維持管理の基礎となるデータ取得技術についてより一層の理解を深め、業務に活かすための、データ取得技術の基礎知識やデータ活用方法について、事例や実演を交えて紹介された。

#### ④ 対外活動 WG

NEXCO 総研と設計歩掛について、首都高速道路(株)とは歩掛、仕様書、大規模更新等について意見交換を行った。

上記の他、働き方改革による就業環境改善についても意見交換を行った。

#### ⑤ 無電柱化 WG

無電柱化 WG では、昨年度の継続で、国土交通省 無電柱化推進部会コンサル WG に参加し、低コスト化に向けた技術開発を推進した。

#### d) CIM・i-Construction への取り組み

国交省、及び国土地理院の活動に参加した。

### 2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施するとともに道路、トンネルを取り巻く課題に取り組む。

（道路専門委員会委員長 石村 佳之）